日刊 昭和25年10月6日 「除月曜」 第三種郵便物認可 運輸省特別扱承認第684号
磐城日日
昭和28年（1953年）10月28日（火曜日） 第965号

磐城日日

発行所
磐城日日新聞社
福島縣小名浜町溝廻51
電話代表387番
編集兼発行人 長[illegible]壽一

募集
業務部員 若干名
◇希望者は履歴書持參の事
磐城日日新聞社

人權尊重に起つ小名濱議會

鹿島合併後初の小名濱町議會は二十四日公民館ホールに開会（一部既報）行政審議会を新たに設置して、鹿島住民の意志を尊重十二分に行政面に反映させる方途を講じたほか、合併後の三部落湯本分割が旧鹿島の村是に反するばかりでなく、村民の人權を柔りんする不法行爲として壓倒的多数のもとに否決したが、今次合併後の初議会は國民の人權尊重という民主政治の基本的精神を眞に小名浜町政が打ち出したものとして注目されている

遂に分割の件否決

金澤議員 民主憲法の精神强調

審議實に三時間、可否を巡ぐり愼重な討議が行われた全問題は、議案二十号「町の境界變更に關する件」として上提され、上矢田、松久須根、三澤の區域を分割することについて劈頭から活発な否定論が飛び出し、一方保留を適切なりとする温健日和見論が登場、大勢は否決と保留の二つに分かれたまゝ、約二時間に亘る審議を經たのち否定論のイニシアテイヴをとつた金澤議員は先ず憲法十一條を眞ッ向に振りかざし

「基本的人權は侵すことの出来ない永久の權利として國民に与え」られている、更らに十三條ではこの「國民の權利は行政の上で最大の尊重を必要とする」と明示されているではないか、と冒頭し十月二日の協定はすでにとの精神を放れた暴擧であり、当時獨立村の理事者であつた八代氏の聲明にもあるように完全合併は村是として明らかに謳われておる、法的にも未だ獨立村の形態を維持した全村並びに全村民に對して「鹿島」の同意を得ない協定は無効であるばかりでなく、總務委の調停案と共にあまりにも人權を無視した行爲と見られるので「このようなことは民主政治確立の上にも斷固として否決すべきだ」と强硬に否決線を主張、更に部落民の意志としても一例を擧ぐれば三澤の如きすでに十七世帶中十四世帶まで分村反對の請願を町長に提出している實状であるではないか、と力說長瀬議長採決の結果二十三出席議員中否定二十保留三、遂に小名浜町の三地區分割は茲に否決された

鹿島の意志を尊重

分割否決に至る迄の経過

解說

小名浜町議会史上空前の議案否決記録となつた分割問題は、縣会上提時縣總務委提案による地元選出縣議によつて調停案が出され、湯本、小名浜兩町が十月二日急施町会を開いて同意の線を出し兩町協定書を提出して縣會を通過したものであるが、その後先ず八代鹿島村長が合併前未だ獨立村としての機關にある鹿島村の同意を得ない協定というものは村民と理事者を侮辱した行爲であり法的にも無効と思われ道義的にも遺憾であると協定不調印のいわゆる「八代聲明」が村民に行われ、二十四日小名浜町議会は協定に基ずき分割の件を上提審議、前記の如く保留と否定の兩意見に分かれ

保留論は菅原議員ほか二名

協定の道義的精神と縣政下の地方的影響など客觀的諸狀勢を考慮した結果自重保留論を推進したようで

否定論の線は金澤議員ほか十九名金澤議員の主導性が大きく動いたように見受けられ

道義精神も尊重せねばならぬが住民の人權を尊重する民主政治の在り方はそれ以前のもので、憲法を政治の聖典とする以上絶對に守り拔かねばならぬ問題であり本質的により重大性があると信ぜられるよつて基本精神の推進の上にも先ずそれを確立することが第一義との大義明分論が主体となり

大多数の議員が是と同調遂に分割否定が議決されたもの

冷害対策に町村長会

廿六日平で

石城町村會では二十六日十時から地方事務所会議室に於て、冷害対策、学生寮、土地改良協議会設置などについて協議する

木戸河港課長ら

小名浜を視察

縣高野土木部長、木戸河港課長ら一行は相双地區の工場施設、土木關係、水稻冷水害状況などを視察後廿五日小名浜到着、一泊の後廿六日朝から正午ごろまで小名浜港修築工事状況及び漁港、日本水素工場、小名浜一圓の水稻冷水害狀況を具さに視察、午後から錦奥羽化学工場に向つた

[illegible]グスリなら
佐藤の[illegible]
長生堂藥局
小名浜中島 電一七〇

湯本內郷磐崎議員大會

十一月一日に開かれる二町一村（湯本、內郷、磐崎）議員大會は、議員保養所に開かれ、スポーツセンター改良に關する件及びその他、各町村提出議案について審議する

絢爛多彩のスケヂユール

小名濱文化の日行事

十一月三日の文化祭を迎えるに当り各町村ではそれ〳〵記念行事を計畫中であるが、小名浜町では町及び教育委員會 公民館の三者共催によつて鹿島合併後初の多彩な記念行事を行うことになり二十六日そのスケジユールを次の如く發表したなお詳細については二十六日午後一時から公民館運營審議会を開いて協議し再發表することになつている。

▼陸上競技……三日第一小学校グラウンドに於いて午前八時半から正午まで（雨天の場会は八日）

▼種目

團体競技……▼ダンスと体操（小、中、高校生）▼綱引き（各区対抗、男子）▼球入れ 各區対抗 女子 ▼八百米リレー……各團体対抗で合計年令二十才以上及びPTA對抗、青年團對抗（未定）▼六百米リレー（各區對抗、男子）▼四百米リレー（各區対抗 女子）▼驛傳競走（各種団体及び青年団で四人一組對抗）

墓の伊勢参り（消防團對抗）

個人競技（参加隨意）……▽自轉車遲乘り競走（男子）▽煙草吸付競走（男子）▽栗はさみ競走 女子）▽親子三人競走（假の親子でも可）▽札合せ（男子）▽敬老賢つり（七十才以上）▽寶探し（來賓及び役員）

◉專門部競技

野球……▽十月三十一日午後一時から一中、二中▽十一月一日午前八時から一小、二小▽全三日正午から一中

庭球……一日午前九時から一中コート

卓球……一日一小で午前八時から

弓道……三日午前九時より町內横町自性院

柔道……三日午後一時から小講堂

劍道……一日午前九時から二小講堂

◉藝能部門

謠曲……一日午後二時から全九時まで公民館に於いて松韻会によつて「觀世流」を公開する

邦樂及び舞踊……七日午後六時半から全十時まで公民館講堂で、琴、尺八三味線、日本舞踊

演劇……十四日午後六時から日本水素工場講堂で「葉櫻」（小名浜演劇研究会）「或る夜のできごと」「シユウ雨」（日本水素演劇研究部）の三種目が上演される

美術展覽会……（繪画、寫眞、書道）三日から五日まで日本水素文化部による作品を全講堂に展示する

コーラス……十月三十一日午後六時から日本水素講堂で全文化部コーラス部が行う

なお江名町では三日町內及び他町村チームと親善野球大会を行う予定である

円滿に解決

『丸浜争議會社側首切り撤回』

既報＝賃金値上げ爭議中の小名浜町隼人丸浜運送店の団交は二十四日午後四時半から開かれ、會社が提示した從業員四名の解雇を撤回、賃上げ問題は妥協し円滿解決を見た

菊多方部小中学球技大会

菊多方部小中学校球技大会は來る十月三十一日と十一月一日の二日間に亘つて行われる、組合せは次の通り

川部小中――勿来小中
山田小中――田人小中
錦小中――植田小中

会場は錦中學校

消息（人事）

國會休会中の關內運輸常任委員長は廿六日秘書矢吹康氏を伴つて小名浜町を訪れ、勇丸遭難船主を始め關係各官公廳に見舞を行つた

天氣豫報 25

「本日」南西のち北西の風で朝の中は雲が多いが後ち良くなります「海上」穏やかです

魚菜市況 24

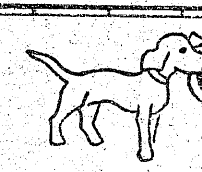
「小名浜中央青果市場」たまご一四～一五玉菜五〇～七〇甘諸三〇～五六ねぎ八〇～一二〇きうり八〇～一八〇里いも三〇～六〇にんじん七〇～一五〇白菜四〇～七〇なす五〇～一五〇大根二〇～四〇牛蒡一四〇～一五〇馬鈴薯三〇～八〇

「湯本青果市場廿五日」たまご一三～一五、五〇牛蒡一八〇大根一〇～四五ねぎ（一ぱ）七～一二山東菜（一ぱ）二～三油菜（一ぱ）二～三にんじん七〇～一七〇馬鈴薯五五～八五ほうれん草（一ぱ）八～一二白菜三五～六〇甘藷四〇～五五牛柿一〇〇～一三五拔柿二〇〇～二三〇ゆず（一こ）八～一五〇玉葱五五～七〇なす一〇～二〇〇きうり七〇～二三〇

「小名浜魚市場」いか一六五～一八五えび一、六〇〇きす四三〇たこ一五五小えび一一〇〇唐八六〇さけ一、八〇〇すずき一、〇〇〇小さば一五〇そうだ四七〇ちぼ二五〇さば一一五小いか一五〇

小泉屋 No.4 ニユース
三元式
堀井謄寫版
（附屬品）
鉄筆用原紙、タイプ原紙、ヤスリ各種、インク類、ローラ、絹布、修正液
小名濱町本町 電話122番

開業お知らせ
土地建物の賣買
の斡旋
の信託業務
御氣輕に御利用下さい
小名浜町隼人70番地
（協青果市場內）
小名浜土地建物株式会社
代表取締役 菅原 勳



經費をかけずに良い品安く
寒さの御用意
冬服地ネルカセン純毛特價
夜具地と裏地フトンの手入
カネボウ毛糸 2000円
松月足袋別珍特製160円
豆別珍55円大人100円
純毛コツトン1500円より
セータカーデガントツクリ
裏毛メリヤスはオリエント
学生服セーラ服學帽カバン
化粧品柳屋メヌマ ジユジユ・ウテナ 80円
今評判の『ちどり綿』
極上一貫匁千七百五十円
白一級品千三百円
赤一級品千円
皆様の店
平マーケット
チケツト歓迎
小名浜第二小学校前 電二九七

アベツク歓迎
25日ヨリ
27日マデ
同時上映
全男女性の拍手を浴びてシーズン初の最高二本立
われら自身のもの
プライス、グレンヂャー
總天然色
ヴァレンチノ
デクスター、ベーカー
小名浜 キンビ館 電六七〇

磐城日日　昭和28年（1953年）10月27日（火曜日）　第965號
一部金5円(月曜休刊)
第三種郵便物認可

讀賣旗阿武隈を越ゆ
白河（縣南代表）が初の優勝
県下野球小名浜大会終る

續報、讀賣旗爭奪兼軟式野球縣選手權大会は小名濱有史以來最大の球宴として萬余の觀衆にうめつくされた一中、水素両球場に二十五日の快晴下準々勝、準決勝を展開、優勝候補常磐内郷を2A——1、に下した全小名浜と片や國鉄郡山を3A——1、相双代表原町クラブを5——1と一方的に破つた縣南の雄白河市役所により決勝戦が行われたが、全小名浜最後の反攻も空しく3——2讀賣旗は縣選手權と共に阿武隈山脈を越して縣南代表白河市役所の頭上に燦然と輝き去つた

◇決勝戦

白河——全小名浜

白	000	000	201	3
小	000	001	001	2

	打	安	三	四	失	盗
小名浜	25	5	3	4	2	2
白河	35	9	7	2	2	2

▽球審佐藤、壘審花澤、岡、石城▽バッテリー（白河）長谷川、鈴木——高畠、（小名）馬目、布施——石井▽二壘打、白河＝國山、鈴木、室井、小名浜＝佐川二本

【試合經過】小名浜は主戰投手馬目、白河は長谷川をマウンドに送つて對戰、堂々の布陣をしたが白河は小名浜馬目をよく攻めて初回から國山三壘打を浴せるなど活發な打擊戰を展開、二回にも二壘打一本を含む二安打、四球一で二死滿壘のチャンスを得るなど白河長谷川を打てぬ小名浜を終始リードして試合を進めたが六回裏、小名浜の攻擊に二死のあと

幸運の先取一点
全小名浜應援團沸く

ラスト馬目喜彦の三壘ゴロがヒットして壘に出、盜壘したあとトップ佐川が再び中前に二壘打をたゝき出して走者二、三壘白河齋藤監督とゝに至つて長谷川を退けて鈴木を起用したがパスボールに小名浜は幸運の一点を先取した

そのあとラッキー・セブンを迎え一点リードされた白河の攻擊はものすごくラスト鈴木が四球で出たあと一番國山が安打し外野手のエラーで鈴木は三壘を踏み、二、三番打者ピッチャーゴロに倒れたその際をねらい、ホームスチールを敢行同点とこぎつけた、そのあとバッターボックスに立つた四番打者室井はレフトセンター間を拔く猛烈な二壘打を放つて更に一点を加點、試合を逆轉させた

八回両軍とも凡打のあと最終回白河の攻擊はラスト鈴木ライトフライに倒れたあと打順よくトップに返えり國山右翼前にヒットして盜壘、二壘を踏めば二番杉山中前にヒットして走者一、三るい、この時投手布施何を考えたか一寸息を拔いた隙を見て一るい走者杉山二るいを襲つたのに驚き、布施二るいに投球、杉山は刺殺されたがこれを見た三るい走者國山本るいを襲つてこれを落し、その差二点と全小名濱をリードした

九回絶好のチャンス空し
痛こんの悲涙小名軍潰ゆ

二点リードされて敗色濃厚となつた全小名浜最後の攻擊、何とかしてせめても延長戰に持ち込みたいのが偽らさる全小名浜の心境

さて試合は二番柳井內野安打で一るいに出、續く三番大江よく打つて中前に安打、四番宮野よく選んで四球、遂に小名浜無死滿るい絶好のチャンスを得て滿場は總立ち、耳目をローする大歡聲となつて湧きかえつた

両軍ナイン、こゝに至つてグランドは審判を残すのみで両監督の許に集り謀議を重ねる事數次、時をおつて數を増した觀衆六千は或いは寂として聲なく、或いは滿場を動ずる歡聲となつて現われる裡に五番打者石井、惜しくも三振に退き、六番强打者小泉よく選んで四球押し出しの一点を得てその差一点、滿場ファンの興望を双肩にマウンドに立つた七番布施投手、監督のサインにバンド戰法に出たが失敗、走者大江は憤死、走者宮野を三るい、小泉を二るいにおき田中監督バンド戰法を斷念、正攻法で長打をサイン、應じた布施、大きな當りレフトフライ、レフト杉山勝つか負けるか！賽を一手に握つて球を追う……取つた!!

試合終了

天の利小名に非らず

はがらか体育祭
〃常磐〃習技生ら九百

常磐炭礦習技所では廿五日湯本坑、内郷坑、磐崎坑、鹿島坑の習技生（約九〇〇名）の体育祭を行つた

先づ二十四日体育祭の始めとして前夜祭を行い、各礦巡り駅傳競走を行つた、コースは內郷山神社—內郷—湯本—鹿島—磐崎—湯本第二小学校のコース、二十五日は湯本第二小学校々庭で午前九時より開始、今までにない盛況だつた、特に「一番乘り」と云う競技は一間の城を木材で作り然も花火仕掛けで本当に炎上すると云う見事なもので目新らしい競技として人氣を呼んだ、尙同時に行われた湯本一、二中、好間中、磐崎中学生の八百編走では一位湯本二中、二位磐崎中、三位好間中であつた

体育祭最後の呼びものはお得意の常磐炭坑ぶしで笑ひのうちに習技生体育祭を終つた

郡山A振わず
強豪原町も敗退す

「水素球場」＝第一日

①原町A7——2水素

◎バッテリー＝（原）吉田、高橋、石井——林、（水）佐藤——吉田

◎本るい打（水素）＝吉田（羊）、安西

②白河2A——0品川

◎バッテリー（品）土井——清水、（白）鈴木——高畠◎本るい打（白河）佐藤秀

③原町2A——1福島

◎バッテリー（原）高橋——林、（福）樋口——松田 ◎本るい打（原町）石井

（第二日目）

④白河3A——1國鉄郡山

◎バッテリー（國鉄）伊藤——川島、（白河）長谷川、鈴木——高島

⑤白河5A——1原町

◎バッテリー（白）鈴木——高畠、（原）吉田、高橋——林 本るい打杉山（白河）

【一中球場】

（第一日目）

②福島9——6中村

◎バッテリー（福）丹治、淺野——尾形、（中村）佐藤、高木——佐々木、佐藤

③準々勝

内郷12——1沼尻

◎バッテリー（内郷）鈴木仁田、本郷——豊島 ◎本るい打（沼尻）後藤兒

「第二日」

④準々決勝

小名浜5……2福島

◎バッテリー（小）高久田……角田、管野、（福）大野、丹治……尾形、伊勢野 ◎本るい打（福）鈴木

⑤準決勝

小名浜2A——1内郷

◎バッテリー（小）山野邊、馬目……石井、宮野、（内）本郷、仁田——豊島

最高殊勳賞 室井選手
美技賞は大江宗夫君

讀賣旗大会各賞は表彰式に於て次の通り授與された

▽小名浜町長賞＝白河市役所

▽小名浜町会議長賞＝全小名浜

▽最高殊勳選手賞＝室井勇内野手（白河）

▽最高投手賞＝鈴木四郎投手（白河）

▽打擊賞＝佐川寛內野手（全小名浜）

▽監督賞（野家運動具店賞）＝齋藤金助監督（白河）

▽敢斗賞＝山野辺投手（小名濱）佐藤秀外野手（白河）

▽美技賞＝室井勇（白河）、大江宗夫（全小名浜）、小野拓（内郷）

輝く大會新記錄 國体
小名浜の渡邊選手重量擧に優勝

國体四國会場新居浜で行われた重量擧競技に出場中の小名浜町居住渡邊昌幸選手はライトヘビー級決勝に三〇〇（プレス八二・五、スナッチ九七、ジャーク一二〇）の輝しい大会記録を樹立して堂々優勝の榮冠を獲得した

呉羽錦工場燒く

二十四日午後十一時三十分頃錦町中田落合、呉羽化學錦工場（工場長山縣孝雄氏）のスロホン酸工場より出火同工場（主任係長小泉喜代次氏）の工務室、事務室、第一製造課分析實驗從業員控室（同通路）など百五坪を燒いて午前零時三十分鎭火した、人命には異常がなかつた出火と同時に呉羽工場特設消防團員と消防車が消火に努めると同時に錦、植田、勿來、山田、小名浜などから消防車八台が消防員約三百名を分乘させて、現場にかけつけ必死の消火に努めたが工場にはスロホン酸タンク四基があつて水をかけると、爆發の恐れがありまた隣接の西側工場には水素タンク、北側工場には硫酸タンクがあつたため消防員の消火作業は必死そのものであつた

同工場はズルファミン劑藥品の原料を製造している工場で、この施設の北半分だけで南半分の分析室は幅三間の三和土で仕切られていたので火を喰い止めた

損害約一千万円（推計）原因については植田地區署で調査中であるが、原因と見られる樣なものは分析室には多數の配線電熱器、藥品などがあり一方控室では喫煙が許されていた、また二十四日は作業終了後工場中央の三和土で演劇部員が二十五日の日曜日に公開すべく演劇の練習をしていたといわれている、また同工場分析室には工場開設以來の分析資料があつた、なおこの大火のため二十五日行われる筈であつた各課對抗の演劇大會は中止となつた

内郷一中で
模型飛行機大会

內郷一中ではこのほど完成した放送室の披露と共に、三十日午前九時より一中文化祭を催すことになつた

催しものには演劇の發表会、及び模型飛行機大會、バザーなどを行う

出火御見舞御禮

十月二十四日午後十一時三十分頃弊社工場より出火の際は早速御馳付け下され消火に御盡力下され且つ御鄭重なる御見舞を賜り誠に有難く厚く御禮申上げます

御蔭樣にて大事に至らず支障なく操業致して居ります

一々參上致して御禮申上ぐべき處混雜に取紛れ御尊名御伺え洩れもあることゝ存じ取敢えず紙上を以つて御禮申上げます

昭和二十八年十月二十五日

錦町
呉羽化学工業株式会社
錦工場
工場長 山縣孝雄

近火御見舞御禮

十月二十四日夜近火の際は早速御馳付け下され消火に御盡力を賜り誠に有難く厚く御禮申上げます

錦町
十和會
会長 赤津幸之亮
副会長 佐久間清一
外会員一同

近火御見舞御礼
新刊書籍
田邊書店
田辺孝輝
錦町（呉羽前）
電話（植田）215番

近火御見舞御礼
映画常設館
錦座
鈴木富藏
錦町中田
電話（植田）225番

外科
内科
性病科
草野醫院
草野道平
野間 正
小名浜町中島（電話局隣）
電話小名浜九九番

新型强力モーター
明電舍の
各工業用
農事用
に絶對信用のある
モーターの御相談には当店へ
長山電機商会
小名浜町本町五八（電話[illegible]番）